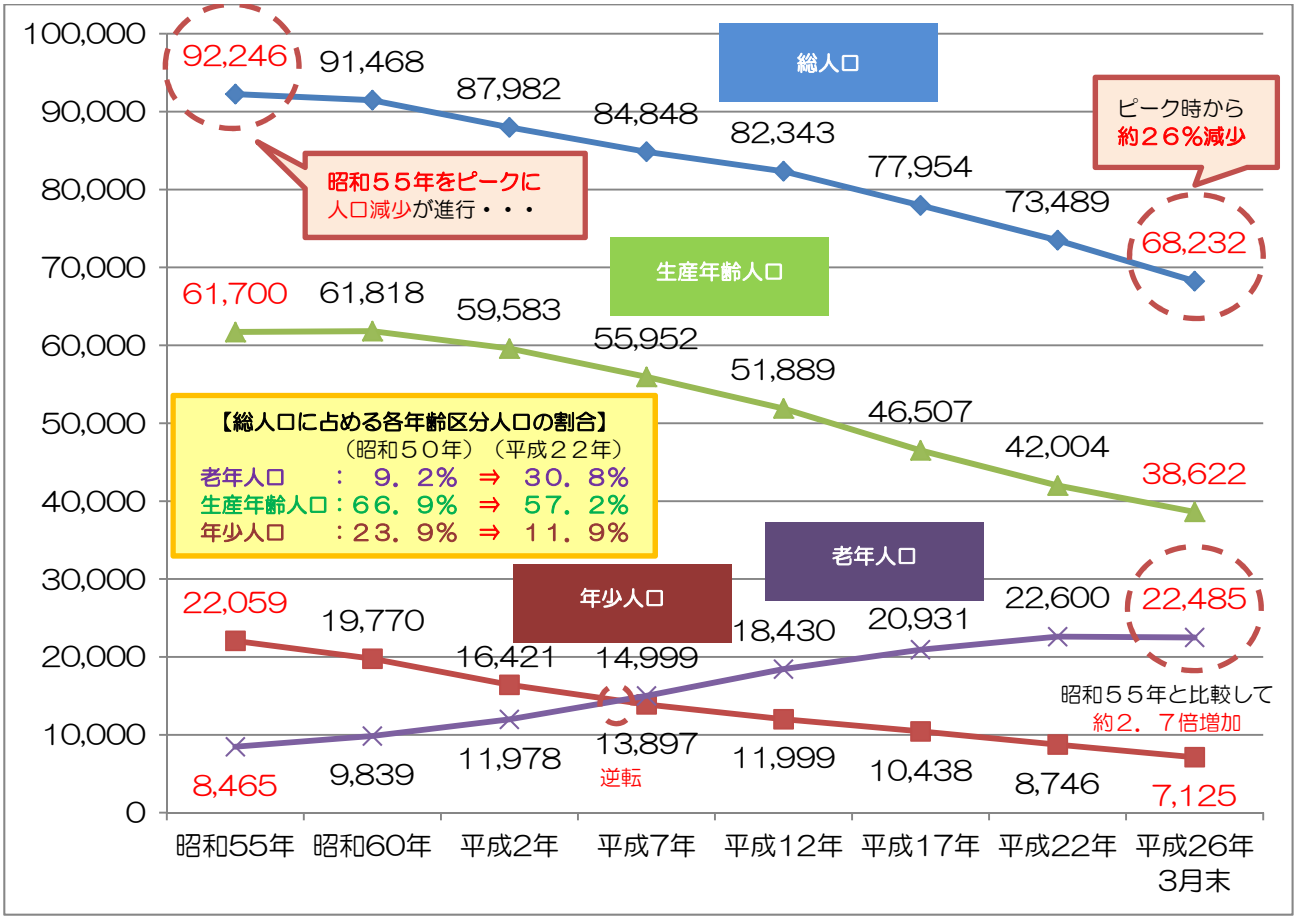
資料３

気仙沼市における人口動向（過去～現在①）

昭和５５年をピークに減り続ける人口

気仙沼市では昭和５５年をピークに人口が減少し，平成２２年の国勢調査時には７３，４８９人に減少し，震災をはさみ現在は６８，２３２人にまで減少しました。年少人口（１４歳以下），生産年齢人口（１５～６４歳以下），老年人口（６５歳以上）という３年齢区分別に人口の推移をみると，年少人口と生産年齢人口が減少している一方，老年人口は増加しています。この結果が示すとおり，気仙沼市においても少子・高齢化が進行しており，気仙沼市の高齢化率（平成２６年３月末現在，３３．０％）は県内１３市の中で２番目に高くなっています。高齢化率が高くなればなるほど，医療，介護，福祉などの社会保障関係費が増加するため，現役世代の負担がますます増えることになります。

【図１】気仙沼市の人口推移（昭和５５年～平成２２年）



資料：総務省「国勢調査」，平成２６年３月末は住民基本台帳人口

※　人口総数には年齢不詳が含まれるため，各区分の合計値とは一致しません。

※　昭和５５年から平成１７年までの人口については，合併前の気仙沼市，唐桑町，本吉町の人口の合計です。

気仙沼市における人口動向（過去～現在②）

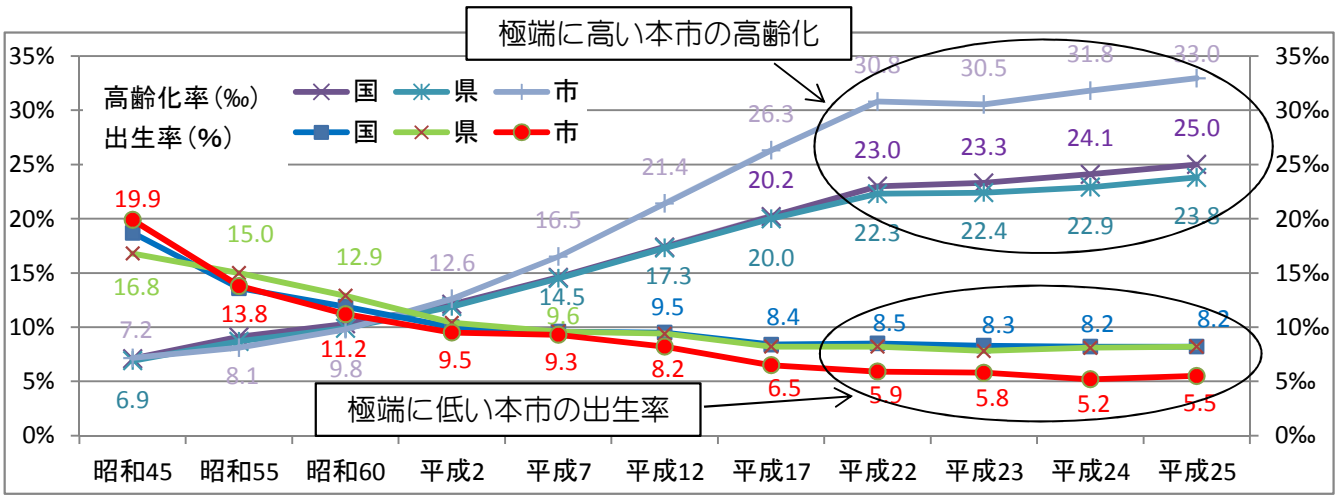
全国・県平均から極端に低い本市出生率
年少・若年者の人口流出が止まらない

本市の出生率は，昭和５５-６０年を境に全国平均・県平均を下回り，調査年によっては３ポイント程の大きな差が生じています。一方で，本市の合計特殊出生率は，全国平均・県平均と同程度またはやや上回っている状況にあります。

本市の人口減少の要因の１つは，かねてから高校より上級の高等教育機関（大学，専門学校等）や高校新卒者の地元就職募集が少ないことによる若年者の市外流出と考えられていますが，近年の減少率は４０％を超え，調査年によっては５０％を超えています。また，その後も流出は止まっていません。

【図２】出生率，高齢化率の年次推移

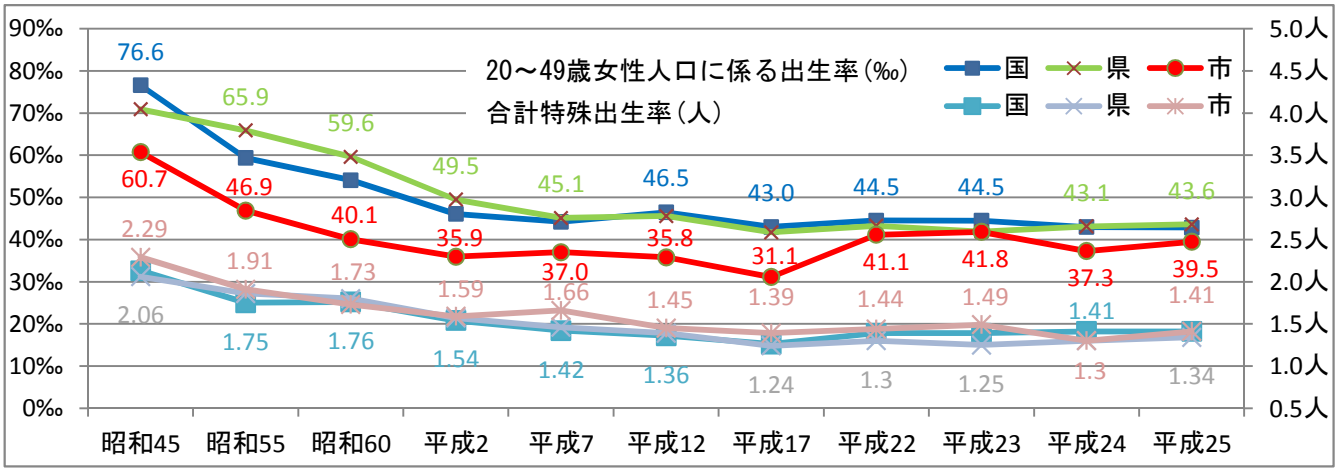
出生率：$\frac{\text{年間の出生数}}{\text{人口}} \times 1{,}000$



【図３】合計特殊出生率等の年次推移

20～49歳女性人口に係る出生率：$\frac{\text{年間の出生数}}{\text{20～49歳女性人口}} \times 1{,}000$

合計特殊出生率：女性が一生に産む子供の平均数



【表１】年少人口の15年後，30年後の推移

（単位：人・％）

	0～14歳 (a)
昭和35年	26, 888
昭和40年	24, 486
昭和45年	23, 282
昭和50年	23, 152
昭和55年	22, 059
昭和60年	19, 770
平成2年	16, 421
平成7年	13, 897
平成12年	11, 999
平成17年	10, 440
平成22年	8, 746

15年後

	15～29歳 (b)	増減率 ((b-a)/a)
昭和50年	19, 736	△26. 6%
昭和55年	18, 112	△26. 0%
昭和60年	16, 607	△28. 7%
平成2年	15, 020	△35. 1%
平成7年	13, 266	△39. 9%
平成12年	11, 800	△40. 3%
平成17年	9, 381	△42. 9%
平成22年	7, 827	△43. 7%

若年者流出顕著

15年後

	30～44歳 (c)	減少率 ((c-b)/b)
平成2年	19, 215	△2. 6%
平成7年	16, 519	△8. 8%
平成12年	14, 775	△11. 0%
平成17年	13, 487	△10. 2%
平成22年	12, 068	△9. 0%

流出が止まらない

【表１－１】年少人口の15年後，30年後の推移（男女別）

（単位：人・％）

	0～14歳	
	男性	女性
昭和35年	13, 808	13, 080
昭和40年	12, 444	12, 042
昭和45年	11, 972	11, 310
昭和50年	11, 906	11, 246
昭和55年	11, 347	10, 712
昭和60年	10, 075	9, 695
平成2年	8, 409	8, 012
平成7年	7, 067	6, 830
平成12年	6, 167	5, 832
平成17年	5, 382	5, 058
平成22年	4, 562	4, 184

15年後

	15～29歳		転出者等	
	男性	女性	男性	女性
昭和50年	9, 760	9, 976	4, 048	3, 104
昭和55年	8, 886	9, 226	3, 558	2, 816
昭和60年	8, 141	8, 466	3, 831	2, 844
平成2年	7, 341	7, 679	4, 565	3, 567
平成7年	6, 637	6, 629	4, 710	4, 083
平成12年	5, 863	5, 937	4, 212	3, 758
平成17年	4, 640	4, 741	3, 769	3, 271
平成22年	3, 897	3, 930	3, 170	2, 900

男性の流出が多い

15年後

	30～44歳		転出者等	
	男性	女性	男性	女性
平成2年	9, 681	9, 534	79	442
平成7年	8, 268	8, 251	618	975
平成12年	7, 371	7, 404	770	1, 062
平成17年	6, 766	6, 721	575	958
平成22年	6, 106	5, 962	531	667

女性の流出が多い

気仙沼市における人口動向（過去～現在）

全国･県平均より高い本市の未婚率

本市の未婚率は，男女とも２０～２９歳においては全国平均・県平均と同程度又は下回る割合ですが，３０～３９歳の男性においては，近年は，全国平均・県平均よりも５ポイント程度高く，大きな差が生じています。

一方，女性は各年代とも全国平均・県平均と同程度又は下回る割合です。

本市の未婚率が高い要因は，出会いの場が少なかったり，首都圏・仙台圏との収入の差などが考えられますが，未婚率の高さは出生数にも影響してくることから，適切な分析のもと，効果的な施策が必要となっています。

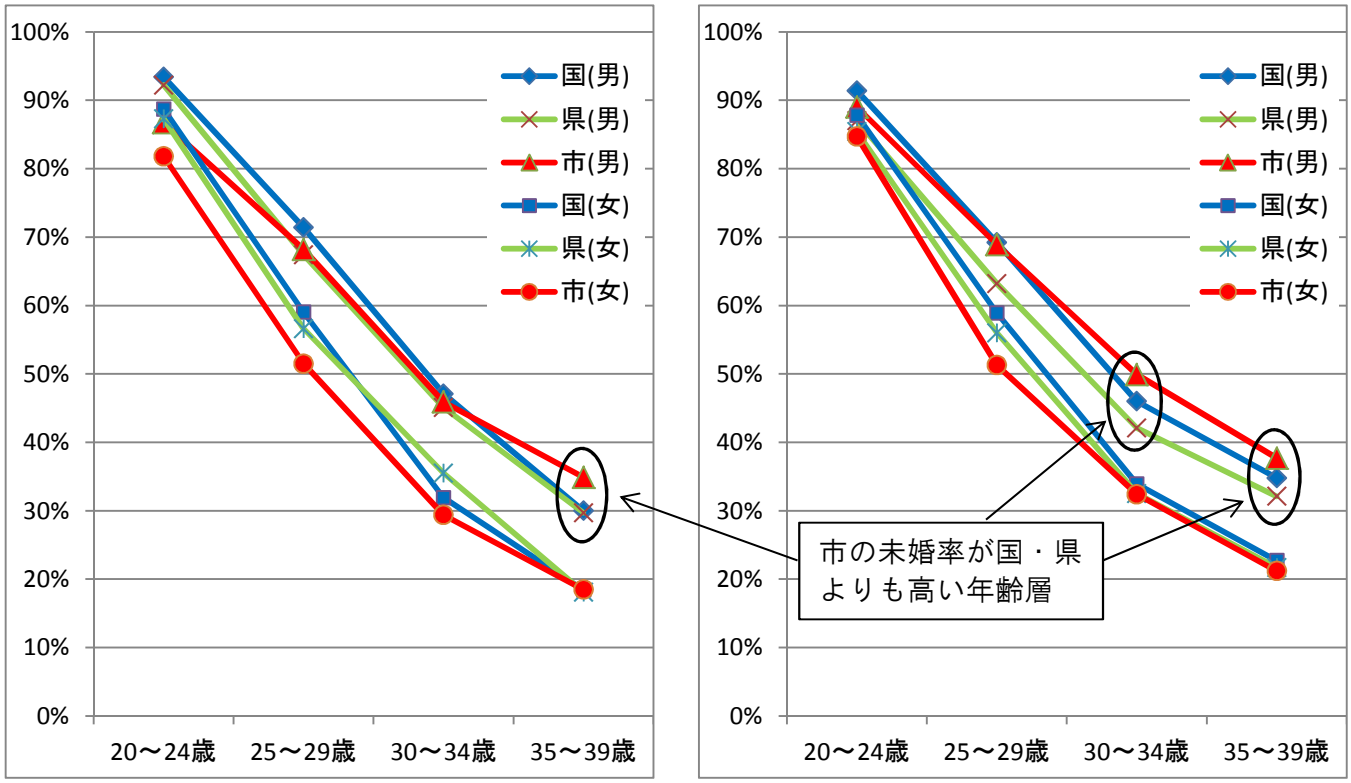
【図４】気仙沼市の未婚率

平成17年国勢調査

	国(男)	県(男)	市(男)	国(女)	県(女)	市(女)
20～24歳	93.4%	92.2%	86.7%	88.7%	87.3%	81.8%
25～29歳	71.4%	67.4%	68.2%	59.0%	56.6%	51.5%
30～34歳	47.1%	45.1%	45.9%	31.9%	35.5%	29.4%
35～39歳	30.0%	29.7%	**34.9%**	18.4%	18.1%	18.5%

平成22年国勢調査

	国(男)	県(男)	市(男)	国(女)	県(女)	市(女)
20～24歳	91.4%	87.0%	89.0%	87.8%	85.4%	84.7%
25～29歳	69.2%	63.2%	68.9%	58.9%	56.0%	51.3%
30～34歳	46.0%	42.1%	**49.9%**	33.9%	32.5%	32.4%
35～39歳	34.8%	32.1%	**37.7%**	22.7%	21.7%	21.2%



気仙沼市における人口動向（現在～未来①）

３０年で，気仙沼市の人口４２％減に…

国立社会保障・人口問題研究所は，２０４０年（平成５２年）の人口が全自治体のうち９５．２％の自治体で２０１０年（平成２２年）よりも減少するとの推計結果（平成２５年３月推計）を示しています。このことは気仙沼市においても例外ではなく，２０４０年の人口は２０１０年よりも４２．０％減少し，４２，６５６人になると推計されています。いくら日本全体で人口減少が進行しているとはいえ，気仙沼市の人口減少は日本全体，宮城県の約２．６倍の速度で進行し，しかも，宮城県内１３市で最も高い減少率という状況が示すように，あまりにも急激に進行しているといえます。

もし，この問題に対して何の策も講じず，このまま人口減少が進むと，「市内での消費が減り，地域経済が縮小する」など，様々な形で負の影響を及ぼすことが確実視されていますので，こうした状況に陥らないよう，人口減少に歯止めをかけるための対策を進める必要があります。

【表２】将来推計人口比較

	2010年	2040年	増減率
日本	128,057,000 人	107,276,000 人	-16.2%
宮城県	2,348,165 人	1,972,577 人	-16.0%
気仙沼市	73,489 人	42,656 人	-42.0%

宮城県内１３市の減少率

	2010年	2040年	増減率	市順	市町村順
気仙沼市	73,489 人	42,656 人	-42.0%	1	2
栗原市	74,932 人	44,794 人	-40.2%	2	6
塩竈市	56,490 人	36,704 人	-35.0%	3	10
登米市	83,969 人	54,775 人	-34.8%	4	12
白石市	37,422 人	24,965 人	-33.3%	5	15
角田市	31,336 人	21,165 人	-32.5%	6	16
石巻市	160,826 人	109,021 人	-32.2%	7	18
大崎市	135,147 人	103,150 人	-23.7%	8	24
東松島市	42,903 人	33,865 人	-21.1%	9	26
多賀城市	63,060 人	55,841 人	-11.4%	10	28
岩沼市	44,187 人	39,177 人	-11.3%	11	30
仙台市	1,045,986 人	988,598 人	-5.5%	12	32
名取市	73,134 人	77,561 人	6.1%	13	33

宮城県内１３市の20～３９歳女性人口の減少率

	2010年	2040年	増減率	市順	市町村順
塩竈市	5,946 人	2,708 人	-54.5%	1	3
気仙沼市	6,197 人	3,008 人	-51.5%	2	8
角田市	3,281 人	1,638 人	-50.1%	3	9
白石市	3,791 人	1,903 人	-49.8%	4	10
栗原市	6,252 人	3,251 人	-48.0%	5	14
石巻市	16,687 人	9,107 人	-45.4%	6	16
登米市	8,070 人	4,435 人	-45.0%	7	17
大崎市	15,153 人	9,219 人	-39.2%	8	24
仙台市	156,555 人	96,028 人	-38.7%	9	25
東松島市	4,997 人	3,174 人	-36.5%	10	27
多賀城市	8,461 人	5,429 人	-35.8%	11	28
岩沼市	5,883 人	3,851 人	-34.5%	12	29
名取市	9,660 人	8,161 人	-15.5%	13	34

資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成２５年３月推計）」

気仙沼市における人口動向（現在～未来②）

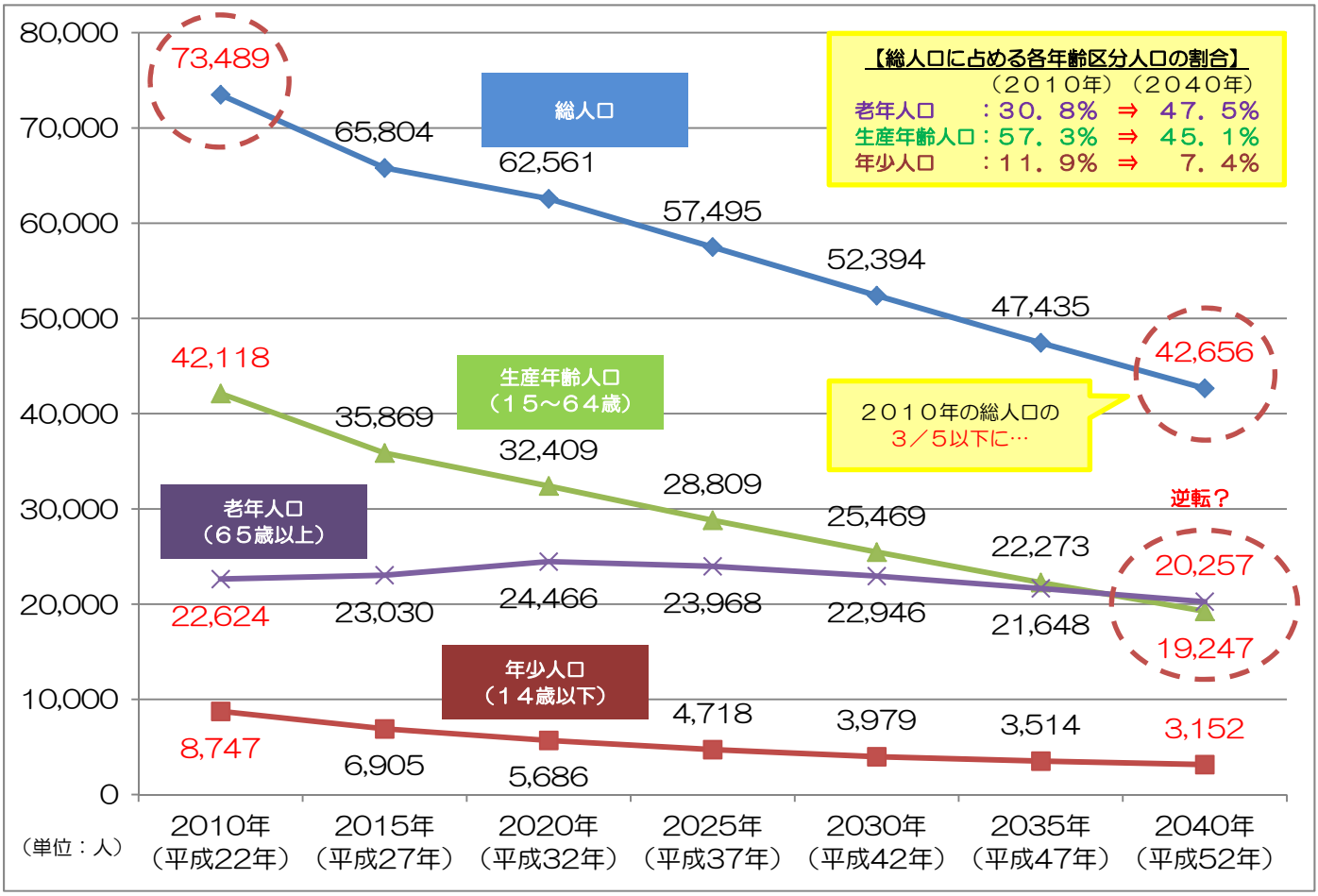
少子・高齢化に拍車！６５歳以上の人口４割超

２０４０年（平成５２年）の３年齢区分別人口の推計結果をみると，２０１０年（平成２２年）に比べて，年少人口は６４．０％減，生産年齢人口は５４．３％減となり，どちらも大幅に減少するとされています。現在の働き手である生産年齢人口と将来の働き手となる年少人口の大幅な減少は，産業活力の低下を招き，地域経済にも大きな影響を及ぼすことが考えられます。

さらには，老年人口も減少するものの，１０．５％の減少となっており，他の年齢区分と比べると減少率はそれほど高くありません。

この結果，総人口に占める老年人口の割合は高まり，ますます少子・高齢化が進行することにつながります。もし，このままのペースで各年齢区分別人口が減少すると，老年人口が生産年齢人口を上回ることが確実となります。

【図５】気仙沼市の将来推計人口



資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成２５年３月推計）」

気仙沼市における人口動向（現在～未来③）

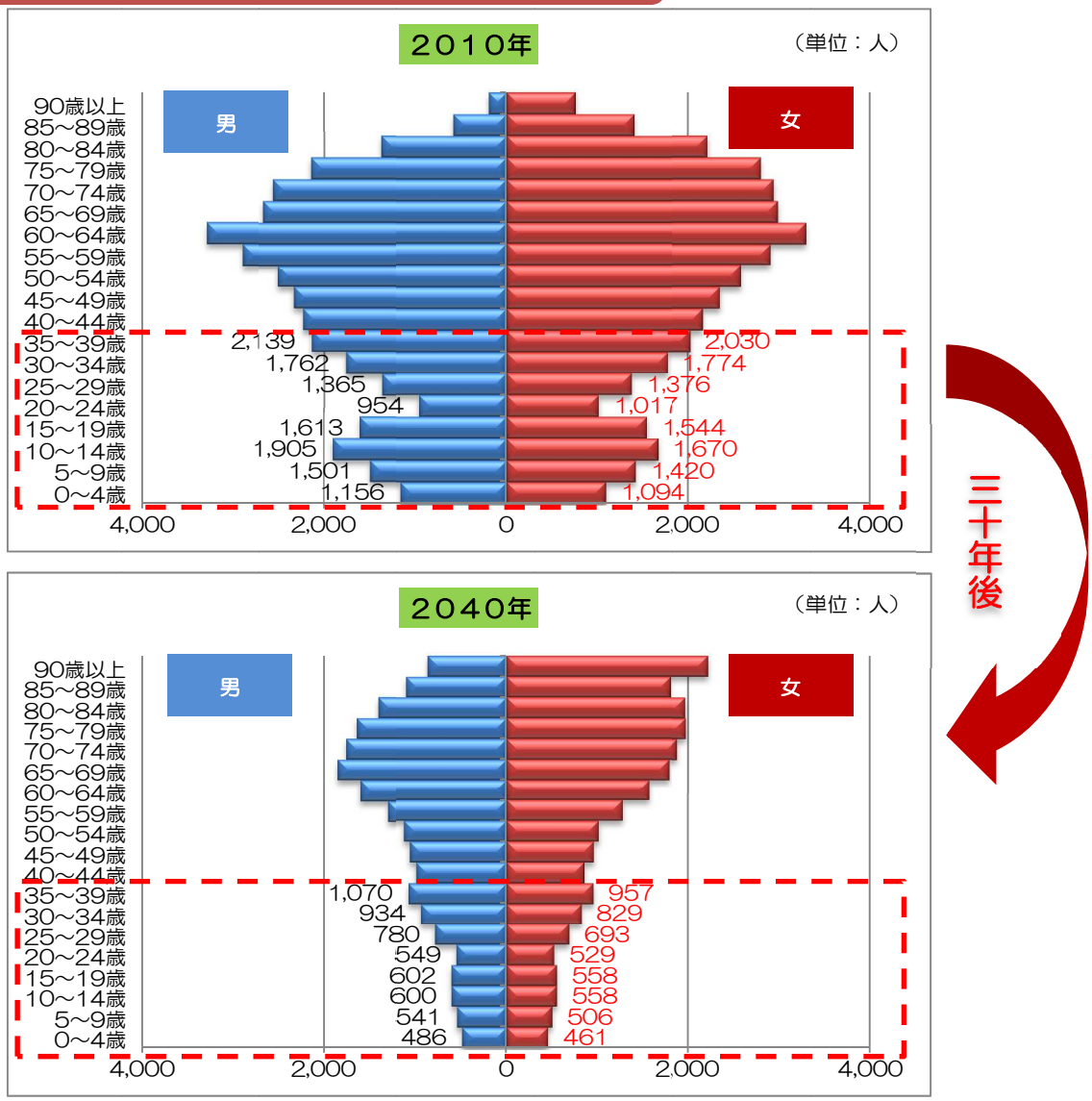
３９歳以下の人口が半分以下に…

２０１０年（平成２２年）と２０４０年（平成５２年）の各年齢層（５歳階級）の人口を比べると，一部の年齢層を除いて大幅な減少が見込まれ，特に，３９歳以下の年齢層が大幅に減少するとみられています。この年齢層は現在，あるいは，将来の働き手であり，将来にわたって気仙沼市を支える貴重な存在です。

また，若年層は，将来結婚し，子供を持つ可能性も高いため，若年層が減少すると，先々の人口にも大きく影響が及んでしまいます。

したがって，まずは，この年齢層の減少に歯止めをかけることが気仙沼市にとっての最優先課題と考えています。

【図６】気仙沼市の人口ピラミッド（５歳階級）



資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成２５年３月推計）」

国が懸念する人口減少の影響

・高齢化⇒経済社会の重荷

・経済規模縮小⇒１人当たり国民所得減

・経済縮小スパイラル

・６割以上の居住地域で人口半減

本市における人口減少がもたらす影響

・人と人が関わることで育まれる豊かさの減少

・豊穣な土地・自然の荒廃・消滅⇒地産食材の減少

・伝統文化・芸能継承の危機

・地域活動拠点（学校等）の統廃合

・高齢化⇒介護力減少

・地域経済力の減少

・防犯力減少

・行政効率の悪化

・

・

・

・

・